

# 長良川鵜飼の観光アピールポイントの変化 —英語版旅行ガイドブックを通して—

瀬戸敦子

岐阜女子大学 文化創造学部

(2019年11月1日受稿)

## A Study on Changes of Cormorant Fishing in Nagara River — Focusing on Tourism Guidebooks for English Speakers and Readers —

Department of Cultural Development, Faculty of Cultural Development,  
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

Atsuko SETO

(Received November 1, 2019)

### 要旨

長良川鵜飼は、岐阜を代表する観光資源である。国内だけでなく海外からも観光客が長良川鵜飼を觀賞するまでとなった。しかしながら、これまでの長良川鵜飼の観光的学的研究は極めて少ない。そこで、海外から観光資源としてのまなざしを受け続ける長良川鵜飼が、どのように外国人を魅了してきたのかを観光ツールのひとつである旅行ガイドブックに注目し、考察した。

その結果、長良川鵜飼の記述に登場する単語は、伝統文化としての単語、観光鵜飼、そして漁法方法を批判する単語の3つに分類され、加えて記述方法は、時代によって変化していることが分かった。

キーワード：長良川鵜飼、インバウンド観光、旅行ガイドブック、訪日外国人観光客

### I はじめに

2020年の東京オリンピック、パラリンピックの誘致が決まり、わが国はさらなるインバウンド観光に力を入れている。この動きは首都圏周辺だけでなく、地域観光地にも広がっている。“日本らしさ”を求める訪日外国人観光客にとって、魅力的な観光資源とは、母国では見ることの出来ない、体験することの出来ないモノやコトであろう。

本論で対象とするぎふ長良川鵜飼は、岐阜を代表する観光資源である。いまでは、国内外から観光客が鵜飼觀賞するまでとなった。しかしながら、長良川鵜飼の観光的学的研究は少なく、生物学、歴史学、民俗学的側面からが中心であった。

そこで本論では、海外から観光資源としてまなざしを受ける長良川鵜飼が、どのような言説で外国人を魅了してきたのか。どのような単語、記述内容で長良川鵜飼を紹介して

いるのかを観光ツールのひとつである旅行ガイドブックから考察する。ガイドブックによる特徴や時代ごとの変化の有無を明らかにすることで、これまで長年愛されている長良川鵜飼<sup>1)</sup>の観光の本質を探ってみたい。

## II 旅行ガイドブック研究

### 1. 旅行ガイドブックとは

一般的に、旅行ガイドブック（以下「ガイドブック」という）は、潜在旅行者が訪問地を訪れる前に必要な情報を得るツールである。わが国が出版する代表的なガイドブックには、『地球の歩き方』や『るぶ』がある。

ガイドブックは、「旅行案内書」や「旅行手引書」とも呼ばれ、英語では *guidebook*, *handbook* である。しかし、ガイドブックがどのような書物を指すか明確な定義はされていない。

その理由として考えられるのは、旅行に関する情報の「情報」が指す内容は、多種に渡り、加えて旅行者にとって求める情報が異なるからである。訪問地までの交通手段、宿泊施設や観光施設を中心としたガイドブックもあれば、国や観光スポットごとに歴史や文化を中心に実際訪れた旅人が描く紀行文学、エッセイを指す場合もある。

また、岩田（2016）は、ガイドブックについて「現地社会の流行やブームが積極的に観光のポイントとして取り入れられ、毎年のように改訂される中で“新しさ”を示す必須の要素となっているところがある」と述べる。確かにガイドブックは、他の書籍と異なり改訂されることが通例である。新しい情報を常に体裁することが読み手にとって重要であるからだ。何を載せるか、特に観光資源については、その時々トレンドにあったものをどのように紹介するかは作り手の手腕によると

ころであろう。

### 2. 先行研究

ガイドブックは、読み手である潜在旅行者を意識した構成で制作される。つまり、わが国で考えれば日本人観光客向けに制作されたガイドブックと、外国人観光客向けにわが国で製作、出版したものと海外によるものに分けられ、構成内容も変わる。

古屋他（2009）によると、外国人向けガイドブックとは「観光地と観光者を結ぶものであり、執筆者・編集者は観光者・読者の文化的背景、興味などを考えながら、適当な情報を取捨選択して執筆・編集している」とし、訪日外国人観光客向けのガイドブックは「まだ見果てぬ地の情報を知ることの出来る重要な手段」であるとした。よって外国人向けのガイドブックは、単なる観光資源を紹介するだけに留まらず、観光を通して対象国や対象地域の歴史・文化を記述した「教養書としての性質」を併せ持つといえる。

ガイドブックを研究材料とした既存研究は、①ガイドブックとは何かという基礎的研究、②ガイドブックの記述内容や写真、イラストから観光地の歴史的発展を探る研究、③ガイドブックと観光政策に関する研究と大きく3つに分類できる。本論では、②に該当し、とくに海外への発展に着目する。

## III 長良川鵜飼の本質

本章では、次章に続く英語版ガイドブックでの長良川鵜飼の言説について検証するために、長良川鵜飼の歴史、特質を明らかにする。

### 1. 長良川鵜飼の歴史

長良川鵜飼が始まったのは、702年の「美濃国各務郡中里戸籍」に「下政戸酒人部意比」

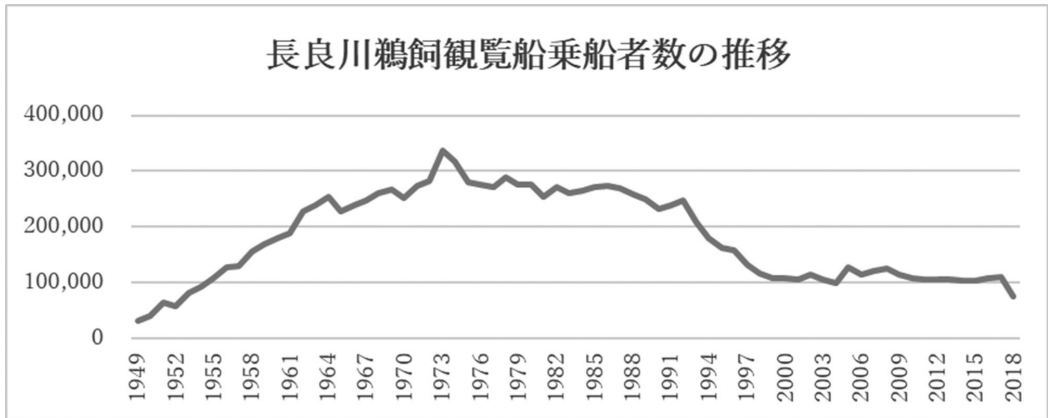


図1 1949～2018年までの長良川鵜飼観覧船乗船者数の推移 (筆者作成)

の妻として、「鵜飼部目都良売」との記載から1300年以上といわれている<sup>2)</sup>。

鵜飼部とは、朝廷や大王、貴族に隷属し、鵜養し漁獲物を貢納していた集団である。鵜飼とは、古くから伝わる伝統漁法のひとつであり、現存するわが国の鵜飼としては長良川鵜飼が最も古いとされる。また現在の長良川鵜飼には6名の鵜匠がおり、伝統を重んじ鵜飼家に生まれた男子のみを跡継ぎとする世襲制度を守っている。1300年以上の長い歴史の中で、伝統を受け継ぎ後世へつなげてきたという事実が、長良川鵜飼の本質である。

鵜飼漁法は、鵜の運動能力、形質的特徴をうまく生かした漁法であり、鮎を通常の釣りよりも新鮮な状態で捕獲できることから、江戸時代には年々江戸へ鮎を献上し、幕府から保護を受けてきた。

織田信長の時代には、鵜飼漁師に「鵜匠」の地位が与えられ、信長は長良川鵜飼を単なる漁法ではなく“見世物”としても訪問客へ披露させた人物でもあった。徳川家康の頃には、尾張藩の直轄となり管理され保護を受けた。当時は、鮎鮓や塩鮎などに製造され、進物として將軍家や幕府の要職人へ贈答された。

江戸時代中頃からは、尾張藩の財政困難や

鵜飼の不良が続く、鵜匠制度や御鮎元の在り方にも改革がもたらされたものの、幕府崩壊の幕末期には、献上御鮎の禁止が発表され、これまで長く続いた鵜匠への厚い保護がなくなった。

その後、明治維新とともに鵜飼の状況が大きく変化する。鵜匠は、京都の有栖川宮家へ鮎献上を1868年頃から続けていたが、1871年の廃藩置県をきっかけに廃止された。鵜飼を続けるにも鵜匠は鵜飼税<sup>3)</sup>を納付することで続けることが許された。

しかしその後の1878年に転機が訪れる。明治天皇が岩倉具視ら随員とともに岐阜を訪れ、随員が長良川鵜飼を観覧した。その際漁で取った鮎が天皇に献上された。このことがきっかけとなり、長良川鵜飼は社会的注目を浴びることとなった。1870年には長良川に3カ所の御料場<sup>4)</sup>が設けられ、鵜匠は宮内庁狩猟寮に所属することとなった。

これまで鵜匠は、不安定な経済状況や鵜飼自体の存続危機に何度も悩まされながらも、長良川鵜飼の価値を訴え伝統漁業として続けてきた成果が、結果的に戦後の宮内庁式部職任命へとつながっている。

『ぎふ 長良川の鵜飼』によると観光鵜飼、いわゆる見せ鵜飼が始まったのは、長良川遊

船会社が設立された1898年頃と書かれている。明治以降になり、鵜飼を見物したいという客の要望に応え、1877年頃からは川船に板ふき屋根を付けて観覧者へ鵜飼をみせたり、その後は鵜飼屋組合が遊覧船経営をはじめたりと観覧者向けの体制が整っていった。

1897年には遊覧船が37隻まで増え、翌年には長良川遊覧船会社が開設し、岐阜市の補助金を得て新造船10隻を加えた。

大正に入り、1924年には岐阜市保勝会が鵜飼営業権を譲り受け、1927年には岐阜市直営となった。昭和に入ってから岐阜市はさらに観光鵜飼に力を注いだ。

観光鵜飼は太平洋戦争から5年間中止されていたが、1946年には復活を遂げ、復活当初は3万人たらずの観覧者であったのが年々増加していった。36年には世界的に有名であった喜劇王チャールズ・チャップリンが鵜飼を見物した<sup>5)</sup>。その後、48年NHK テレビ「国盗り物語」のブームも後押しし、観客数33万7000人に及んだ。

## 2. 長良川鵜飼の特質

わが国では過去、鵜飼は全土で行われていた。その数は150カ所以上と言われている。その中で現存する鵜飼は12カ所<sup>6)</sup>であり、前述したとおり長良川鵜飼は最古の歴史を誇る。

鵜飼を行う鵜匠は、本来ならば宮内庁式部職を任ずる長良川鵜飼の漁師のみ使うことが出来る称号だ。今では、他の鵜飼においても鵜匠と呼ぶが、一般的に鵜飼漁をする人は「鵜使い」と呼ばれる。またこの鵜匠制度は他の鵜飼と比較し、世襲制度を貫いているということも、長良川鵜飼だけが誇る事の出来る特徴である。

丸山 (2015) は現在の長良川鵜飼が主に観光鵜飼として伝承活動が成立しているとしな

がら、長良川鵜飼の本質について史的考察を行った。長良川鵜飼が優れた伝統漁法を伝承し観光的要素を備えて行ったかについて、以下5点の特質を述べている。

- ①篝火をともして川を下りつつ、澁みでも瀬でも漁をする
- ②鵜匠は、鵜を慣らし手網で繫いだ鵜を12羽も使う
- ③複数の鵜舟で魚を囲み込み、鵜に捕えさせる（総がらみ）
- ④鵜舟の乗組員である鵜匠・艫乗・中乗が一体となった隙のない漁である
- ⑤鵜舟・鵜籠など諸用具や鵜匠の着装備は、時代の流れと共に工夫・改良されている

## 3. 観光鵜飼としての長良川鵜飼

岩田 (2007) は、長良川鵜飼の観光化について調査研究した人物である。彼は、鵜飼が漁業から観光へと再編され検証されてきた過程を明らかにした。

戦後の岐阜市は、観光の目玉として長良川鵜飼を挙げて内外へ誘致活動を展開した。1952年、鵜飼は「日本観光事業連盟から国際観光資源として認定」され、わが国を代表する観光資源としてさらに注目を浴びた。同時に観光客の数も増えていった。このころから鵜飼の様子を見せるだけでなく、芸子や飲



図2 外国人鵜飼観覧者数の推移 (筆者作成)

食を同時に楽しめるようになったという。岩田はこれを「観光鵜飼の大衆化時代」と呼ぶ。

図2は、2004年から2017年までの外国人鵜飼観覧船乗船者数の推移である。2005年には愛・地球博、中部国際空港開港に伴い6,109人と前年の約3倍を記録する。2008年には東海北陸自動車道全面開通の年であり、6,754人であった。

しかしながら、2011年に起きた東日本大震災の影響で乗船者数は著しく減少し、その後2016年までは横ばい状態である。

2017年には、インバウンド政策として英語で説明する臨時職員が新採用されたり、Wi-Fiが鵜飼観覧船事務所に導入されたりと3,683人と増加した。

現在、2020年東京オリンピック、2025年の大阪万国博覧会といった世界祭典に向け、外客誘致活動、インフラ整備が進められている。

#### IV 英語版旅行ガイドブックの記述

##### 1. 研究材料

本論で研究材料としたガイドブックは、表1のとおりである。

わが国で初めて英文日本旅行ガイドブックが誕生したのは1913年のことである。公式案内本であるJAPANをはじめ、公的な案内書として財団法人日本交通公社によって出版されたポケットガイドも対象とした。海外で出版されたものとしては、世界で初めて本格的な旅行ガイドブックとして親しまれたA Handbook for Travellers in Japan (以下HTJ)や近年世界で最も売れている1973年ウィーラー夫妻によって制作されたLonely Planet (以下LP)も対象とした。

表1 本研究で使用した旅行ガイドブック

書名	出版国	出版年(再刊含む)
An Official Guide to Eastern Asia: Trans-Continental Connections between Europe and Asia Vol.3	日本(鉄道院)	1913
JAPAN: POCKET GUIDE TO JAPAN	日本(鉄道省、ジャパン・トラベル・ビューロー、日本ホテル協会)	1925, 1929, 1935, 1939
Japan: The Pocket Guide	日本(ジャパン・トラベル・ビューロー、後日本交通公社)	1946, 1955, 1960
Japan: The Official Guide	日本(鉄道省国際観光局)	1941, 1952, 1953, 1954, 1955, 1957, 1958, 1959, 1961, 1962, 1963
The New Official Guide: Japan	日本(国際観光振興会)	1964, 1966, 1970, 1975
HOW TO SEEシリーズ (HOW TO SEE G F U AND ENVIRONS)	日本(日本交通社)	1946
A Handbook for Travellers in Japan (以下HTJ)	英国	1881, 1884, 1891, 1894, 1898, 1901, 1903, 1907, 1913
Terry's Guide to the Japanese Empire (以下TGJE)	米国	1914, 1920, 1927, 1928, 1933
Fodor's Japan (以下FJ)	フランス	1964, 1986, 1974, 2014
Lonely Planet (以下LP)	オーストラリア	1987, 2000, 2003, 2005, 2007, 2009, 2011, 2013, 2015, 2017
Overing Knudsen by (以下OK)	英国	2013
Baseker Japan (以下BJ)	ドイツ	2009, 2012
Wheeler The Green Guide (以下ミシュラン)	フランス	2015, 2017
National Geographic Traveler (以下NGT)	米国	2018



2. 考 察

(1) 分析方法

ガイドブックや紀行文学, パンフレットを代表とする観光ツールの対象とされる観光資源を研究する際, 研究材料で用いられている単語や写真, 絵を分析する。本論では, 各ガイドブックで言説される長良川鵜飼にみられる単語を用い対応分析を行った。

ガイドブックは, 紹介するモノの新鮮さが重要であり, 通年出版されることが多いため, 出版書籍ごとに分析を行い, 散布図とした。また抽出する単語は, 長良川鵜飼の漁業としての言説, 伝統文化としての言説, そして観光資源としての言説に関連する単語を中心に分類した。

(2) 分析結果

1) *Japan(JAPAN) Pocket Guide to Japan* と *Japan: The Pocket Guide to Japan*

図3は, 他の単語と比べ特徴ある単語が, グラフ上の原点から離れた所に点在している。またここでは, *JAPAN* 出版年の位置も配置されている。各単語の並びを見てみると, fishing, cormorant, Gifu, Nagoya が原点中央に配置され成分1においては, 正の方向に classical, interesting, ancient, enjoy や pleasure といった長良川鵜飼を観光資源と捉えられる単語が並ぶ。

逆に負の方向には, sport, industry や 1000 years の伝統文化としての長良川鵜飼を表す単語がある。成分2では正の方向に summer, evening といった時期や時間, famous や excursion という観光資源の単語が並ぶ。

加えて *JAPAN* 出版年の分布は, 1920年代, 30年代, 40年代と年代ごとにばらつきがある。しかし成分1では, 30年代から60年代にかけての *JAPAN* は正の方向に位置していることが分かる。

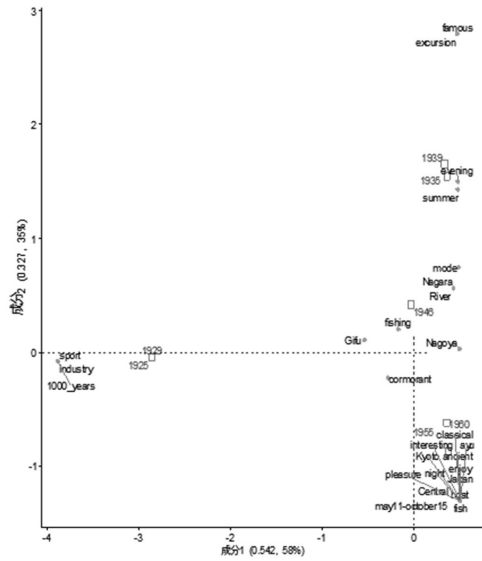


図3 *JAPAN* で使用された各単語とその出現回数に対応分析結果 (筆者作成)

これらのことから, 官民共同で制作されたわが国初のガイドブック *JAPAN* は, 年代を通して長良川鵜飼の紹介には観光的要素を多く出し, 伝統漁業としての言説は少ないことが分かった。

2) *Japan: The Official Guide* と *The New Official Guide: Japan*

比較する限り, 出版年ごとに顕著な差はない。図4の分析結果から抽出された多頻度の単語は, time, water, number や boat といった長良川鵜飼を特徴づける単語ではなく, 原点から離れた言葉には, Syoguns (ママ), Shinojima, Kushigata が点在する。これらは長良川鵜飼の歴史, 鵜の捕獲場所で使用される単語であった。観光資源としての表象されるような単語はなく, 歴史, 鵜の生態, 鵜匠に関する言説に関する単語が極めて多い。

分析結果から, 長良川鵜飼を伝統文化と位置づけ, 歴史や鵜の飼われ方, 漁業としての鵜飼に言及している箇所が多いことが分かる。公式ガイドブック *The Official Guide*

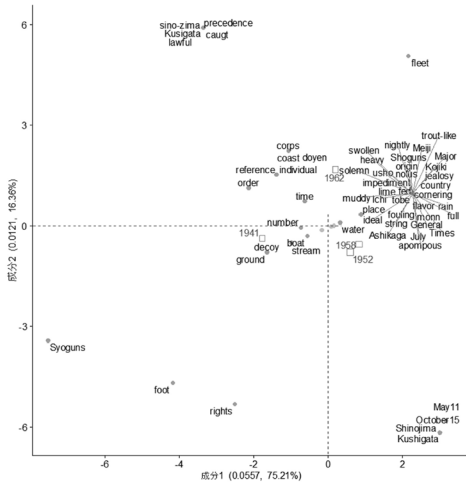


図4 *The Official Guide Japan* で使用された各単語とその出現回数の対応分析結果（筆者作成）

*Japan* や *The New Official Guide Japan* は、わが国の終戦前後に制作され、1991年まで断続的に刊行された。時代背景から考察すると、長良川鵜飼は戦後1946年に鵜飼観覧を再開させ、その後52年に国際観光事業へ指定、鵜飼の魅せ方にも工夫を凝らした。55年の踊り子サービス開始や57年の鵜船の前で鮎を放すサービスが挙げられよう。いわゆる戦後の長良川鵜飼は伝統漁法としての鵜飼ではなく、観光中心の政策がすすめられた。

そのような時代に、当公式ガイドブックでは毎回長良川鵜飼が登場した。日本文化を知ってもらい、日本を観光訪問することを最大の目的として制作されたガイドブックとして、鵜飼の正しい知識を学ぶための鵜飼の歴史や鵜の訓練方法、鵜飼の方法に言及する箇所が *JAPAN* と比較しても多い。また、*How To See* シリーズは1946年に刊行しているが、公式ガイドブックと異なり、観光としての紹介が極めて多いのが特徴である。

このように、同時期に刊行されたガイドブックではあるが、公式案内の場合読み手に長良川鵜飼についての正しい理解をさせるた

めに必要な鵜飼の知識が中心に言説している。

### 3) 時代ごとに見るガイドブックの特徴

表2は、長良川鵜飼遊船経営が開始された1885年から2018年までの長良川鵜飼の主な観光政策や社会の流れをまとめたものである<sup>7)</sup>。

前項でまとめた *JAPAN* や *The Official Guidebook Japan* は、観光鵜飼がはじまったとされる1898年から1964年の東京オリンピックまでに制作・出版されている。

出版回数を重ねるごとに観光資源としての言説が増えていった *JAPAN* は、1933年の長良川ホテル開業や45年の終戦を境に言説が変化していく。1940年半ばからは、戦後の長良川鵜飼再開を皮切りに観光政策が進められていった時代と観光鵜飼の言説が顕著な *How To See* シリーズ出版と重なる。そして1964年以降の *The New Official Guide Japan* では、従来の *The Official Guide Japan* 同様鵜飼についての言説を詳細に述べる一方、観光資源としての言説も述べている。伝統文化としての鵜飼と観光資源としての鵜飼の両方を短いページのなかで明記した。

次に、海外で制作されたガイドブックを年代ごとにみてゆく。1884年から1933年までの *HTJ* や *TGJE* には、岐阜市の唯一の観光資源として長良川鵜飼を挙げている。伝統的文化のひとつである鵜飼で最も有名な長良川鵜飼を、漁業としての歴史的価値や鵜についての言及が多い。その後1964年には *FJ* が登場する。日本をテーマにして出版された最初の64年から現在まで全刊で長良川鵜飼は登場する。鵜の訓練方法、長良川鵜飼の歴史、とくに天皇からの保護を受けわが国唯一の御料鵜飼となっている点を紹介している。

しかしながら戦後50年の1996年以降の *FJ*

表2 長良川鶺鴒にまつわる出来事と旅行ガイドブック年表(筆者作成)

西暦	鶺鴒にまつわる出来事	社会情勢	日本で制作されたガイドブック						海外で制作されたガイドブック				
			I	II	III	IV	V	VI	EU	T&E	EU	LP	BD, DK, ミシュラン, NCT
1881													
1885	鶺鴒の船業開始												
1890	市内者に任命・御料漕を設立												
1894													
1898	鶺鴒造船株式会社設立												
1913													
1914	清涼神宮へ初船会始が始まる												
1921	美濃堂太子エドワード船												
1923	鶺鴒船業開始所開設												
1924	長良川鶺鴒船保護会から岐阜市営へ												
1925													
1926													
1933	長良川ホテル開業												
1936	マヤプリン鶺鴒職員												
1939													
1941													
1943	鶺鴒休止												
1945		戦戦											
1946	鶺鴒再開												
1950	民間船共事業に指定												
1951	「踊り子」サービス開始												
1953	鶺鴒用具一式100点、国の重要有形民俗文化財に指定												
1956	市営鶺鴒開始												
1957	船舟の前で船を扱う「船・5号」												
1960	マヤプリン二度目の鶺鴒職員												
1963													
1964		東京オリンピック											
1967	鶺鴒の周遊指定地に指定												
1970		大阪万博											
1973	過去最高の鶺鴒乗船客												
1973		NHK大河ドラマ「源平物語」											
1975													
1977	鶺鴒「踊り子」サービス開始												
1982	鶺鴒が鶺鴒乗船客の前で挨拶												
1990	大河ドラマ「信長 KING OF ZIPANGU」オープニング												
1995		鶺鴒30周年、阪神淡路大震災											
1997		長野オリンピック、ぎふ中部未来博(岐阜市長)											
1998													
2000													
2001	ふもと大好き鶺鴒乗船開始・バリアフリー船導入												
2001	ぎふ長良川鶺鴒1300年・ゾウラー船、振りこたつ船												
2001	導入	中山道300年祭											
2002	娯楽船運開始、インターネット予約受付開始												
2002	各船種・常設展示設備、乗船場施設整備												
2003		衆・地球博、セントレア開港											
2005													
2006	カッパル専用船試行												
2007	カッパル専用船運航、レディース専用船運航												
2007	ファミリー専用船運航(夏休み期間中)												
2008		東海北陸自動車道全開通											
2009		世界的経済不況、新築インフラエンゲ											BD
2011		東日本大震災											
2011	乗船客数累計1000万人突破	5000年東京でのオリンピック、パラリンピック開催が決定											DK
2013													BD
2013													
2014	長良川中流域における岐阜の文化的景観「重要文化財の景観」認定												
2014	長良川(鶺鴒船の技術)重要有形民俗文化財に指定												
2015		日本遺産認定											
2015	「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に指定												ミシュラン
2015	鶺鴒船業事務所にマヤプリン												
2015	娯楽で説明する船種別乗船導入												
2015	インバウンド鶺鴒ツアー開催												
2015	鶺鴒船業事務所にHPの多言語化・HPでの予約開始	信長400(岐阜)											
2015	クレジット決済導入												ミシュラン, NCT

では構成内容が一新され、観光資源としての紹介が目立つようになった。長良川鶺鴒を見るだけのエンターテイメントだけではなく、飲食、音楽やゲイシャといった総合的なエン

ターテイメントとして楽しむことが出来る」と述べる。

同時期の1997年に刊行されたLPを考察すると、2013年版以降は動物愛護からの批判的視点に言及する文言が登場した。

これまでは“an ancient tradition”や“a popular destination”と紹介していたが、“masters claim the birds are not harmed by their training.”という文言がふえた。また、2015年、17年版では、UKAI: THE ANCIENT ART OF CORMORANT FISHINGと題した特別枠が設けられた。ここでは御料鶺鴒となった経緯や鶺鴒匠がどのように鶺鴒を操るのかについて詳しく書かれている。しかし同時に、barbaric(野蛮な)やcruelty(残虐, 虐待)といった単語が並ぶ。

動物保護の観点から、鶺鴒に魚を獲らせ吐かせると言った漁法は外国人旅行者にとって異質に映ることも考えられる。このような漁法への否定的な単語が出現したのはLPが初めてであった。

ミシュラン社のThe Green Guideでは、“Two assistants navigate while the usho, the master fisherman, stands handling his team of 10 to 12 cormorants like a puppetmaster, …”と鶺鴒匠が鶺鴒を人形使いのような扱うという箇所である。このような記述は他のガイドブックでは見られなかった。鶺鴒がどのような技法であるか、イメージの湧きにくい欧米人にとって例として挙げているのであろう。

また、鶺鴒が捕らえた魚はすべて吐き出すのではなく、小さい魚はそのまま食すことが出来るという内容も描かれていた。これらは近年出版されたLP同様、動物愛護の観点から正確に鶺鴒の方法、鶺鴒の飼育方法を読み手に理解してもらう為に書かれたのであろう。

以上のことから、ガイドブックによって長良川鶺鴒の言説は時代ごとに変化を生じていることが分かった。その時代とは、観光鶺鴒



として長良川鵜飼がスタートした1898年前後から第二次世界大戦後まで、戦後の観光政策が急激に高まっていった時代から1964年の東京オリンピックまで、そして現代において紹介内容が伝統文化として、または観光資源としての比重に差異があり、現代では鵜飼の技法そのものを批判的に紹介するようなガイドブックまで登場した。

1300年以上の歴史を誇り、唯一鵜匠と名乗ることを許されている鵜匠の地位や鵜への愛情飼育といった長良川鵜飼の特質的な歴史的、文化的価値がガイドブックで紹介される。同時に見て面白いエンターテイメントショーとしても表現された。ここには、伝統文化としての長良川鵜飼と観客に魅せるために存在する長良川鵜飼の両方が見え隠れする。そして、時代によってどちらをより強調しているかがガイドブックから読み取ることができた。

## V おわりに

本稿では、長良川鵜飼のガイドブックの言説を考察し、時代によってまたは制作側によって変化が生じていることが分かった。

今後の研究課題として考えられるのは、今回対象ではなかったガイドブックを調査し、本論で明らかになったことの立証性を高める必要があることだ。加えて、ガイドブックではない他の観光ツールには変化があるのか否かについても調査したいと考えている。

岐阜の誇りである長良川鵜飼は、今後どのように観光客を魅了していくのか。ぎふ長良川鵜飼にしかない特質である鵜匠制度や1300年以上の歴史、伝承技術を「厳かな伝統絵巻」として継承していくかエンターテイメントとして数々のイベントを催し続けていくのか。

2019年以降わが国の観光インバウンド政策に期待がかかる一方で、このままでは鵜飼は一度見れば満足するような消費される観光商品で終わってしまうかもしれない。アニメ聖地の岐阜、匠の技術の岐阜といった様々な切り口で岐阜の観光は注目されている。観光とは時代によって対象が変化しやすい極めて流動的な行動である。和田のいう「文化の空洞化と呼ばれるような形のみの伝統文化」にならないような魅せ方が問われており、新たな観光的研究の発展が期待される。

## 参考・引用文献

- 1) 今野理文, 十代田朗, 羽生冬佳. 観光ガイドブックにみる観光地のアピールポイントの変遷. 観光研究14, 2002, P.9-16
- 2) 岩田晋典. 茶アイデンティティの多元化—『地球の歩き方ガイドブック』シリーズ台湾編における表象分析—. 文明21, 第37号. 愛知大学国際コミュニケーション学会, 2016, p63-80.
- 3) 片野温. 長良川の鵜飼. 大衆書房, 1953
- 4) 可児弘明. 鵜飼—よみがえる民族と伝承—中公新書, 1996
- 5) 岐阜県郷土資料12. わが郷土と長良川. 岐阜県. 発行年不明
- 6) 岐阜市教育委員会. 長良川鵜飼習俗調査報告書(初版). 岐阜市教育委員会社会教育室編, 2007
- 7) 岐阜市教育委員会. 長良川鵜飼習俗調査報告書Ⅱ(初版). 岐阜市教育委員会社会教育室編, 2011
- 8) 岐阜市教育委員会. 長良川鵜飼習俗調査報告書Ⅲ(初版). 岐阜市教育委員会社会教育室編, 2015
- 9) 岐阜市教育委員会. 長良川鵜飼習俗調査報告書Ⅳ(初版). 岐阜市教育委員会社会教育室編, 2018
- 10) 北川宗忠. 観光と社会—ツーリズムのみち

一、サンライズ出版、1998

- 11) 里居真一他. 明治中期に刊行された外国人向け英文観光ガイドブックの記述内容の特徴. ランドスケープ研究日本造園学会誌. 2003. Vol.66-No. 5 (20030331), p.389-392
  - 12) 長坂契那. 観光をめぐる近代日本の表象に関する歴史社会学的研究—探検紀行から旅行ガイドブックへ—. 慶応義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻. 2014
  - 13) 古屋秀樹, 野瀬元子. 外国人のための観光ドキュメント—観光ガイドブックに着目して— 一. 情報処理学会研究報告. 2009. Vol.2009-DD-71, No.2
  - 14) 丸山幸太郎. 長良川鵜飼の本質. 岐阜女子大学地域文化研究. 2006. 第32号
  - 15) 和田直也. 長良川鵜飼の再編成—観光への変化と担い手に注目して—. 茨城地理8. 2007. p1-21
- 注
- 1) 長良川鵜飼は岐阜市長良と関市小瀬で行われているが、本研究では、長良の鵜飼を対象とする。
  - 2) 丸山 (2015) は、鵜を飼いならし川魚を捕らえる漁法はそれ以前から東南アジア各国で見られ、日本各地でも行われていたとし、美濃においても702年以前から行われていたに違いないという。
  - 3) 1人2円50銭を納付する。1876年に7円50銭と増えた。
  - 4) 稲葉郡長良村古津 (岐阜市)、武儀郡洲原村立花 (美濃市)、郡上郡嵩田村上田 (郡上市美並)
  - 5) チャールズ・チャップリンは1936年と61年の計2回長良川鵜飼を観賞した。
  - 6) 石和, 木曾川, 長良, 小瀬, 嵐山, 宇治, 有田, 大洲, 三次, 岩国, 原鶴, 日田の12カ所である。
  - 7) 表2の日本で制作されたガイドブックは、I に An Official to Eastern Asia, II には Pocket Guide to Japan, III に Japan: The Official Guide, IV に How To See, V には Japan: The Pocket Guide, そしてVIは The New Official Guide Japan である。